

コロナ禍のくらしの変化を知るために、まちづくり連続講座を3回シリーズで開催！

vol.6
2020年12月

東京のまちづくり活動トピックス

11月25日に「まちづくり連続講座第12講」をオンライン(Zoom)で開催しました。今回から「コロナ禍のくらしを知る」と題して3回シリーズで開催します。その1回目は、「一般社団法人くらしサポート・ウィズ」の中根康子さんから、相談の現場でいま多く寄せられていること、さらにはコロナ禍での相談内容の変化から見てきたことについてお話していただきました。また、くらしの中で、どんな困りごとが起きているのか、それに対してできる取り組みは何かを参加者同士がともに考えあいました。

コロナ禍のくらしを知る その1 ～くらしの相談の現場から～

共催：東京都生活協同組合連合会 地域生活研究所
参加人数：26名(後日視聴希望10名) 7生協参加



中根 康子さん
一般社団法人 くらしサポート・ウィズ 事務局長

「くらしサポート・ウィズ」の活動

くらしの困りごとや悩みを電話や対面で相談を受けたり、生活弱者に寄り添う活動を行っている。組合員だけでなく、一般の方も対象としていて、2019年度に受けた相談件数1678件。寄せられた相談内容に応じて、傾聴、情報提供、紹介、助言、見守りなどのほか同行などの伴走支援も行っている。

相談

「くらしの相談ダイヤル」で生活総合相談を受けている。離婚、DV法律相談は面談で有料となる。

講座

エシカル消費講座、日本大学消費者講座など、主に消費生活に関連した講座を行っている。

若者自立支援

パルシステムの奨学金制度で毎月給付を受けている経済的に困難な学生の生活面、精神面の伴走支援を行っている。仕事に就けない若者支援の居場所も運営。

人材育成

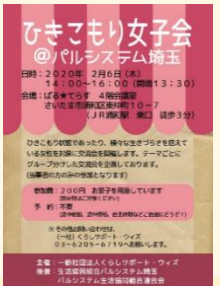
協同組合の存在意義やたすけあい・ささえあいの大切さを学生と受け入れ団体がともに学ぶプログラム「つながりインターンシップ@協同」「立教大学サービ斯拉ーニング(RSL)」を開催。

居住支援

2019年8月より居住支援法人として東京都より指定を受け、住まい探しが困難な方や、空き家の困りごとサポート。

生きづらさを抱える女性の支援

様々な生きづらさを抱えている女性を対象に、年3回「ひきこもり女子会@パルシステム」を継続開催。



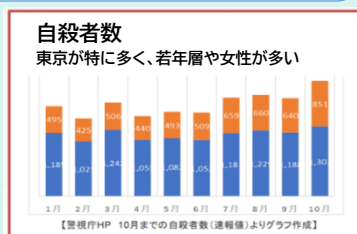
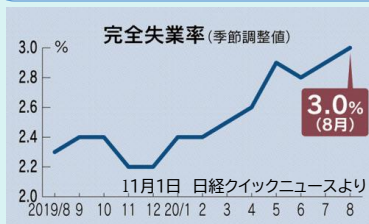
派遣の仕事が減って、明後日支払うはずの家賃が払えない。

母子家庭で、バイトの収入も無いのに、大学の授業料や施設維持費など通常と同じで、大学を辞める話を親から毎日聞かされて辛い...

・家族が在宅勤務になり、オンラインの当事者会に参加できない(聞かれたくない)
・夫と喧嘩が増えた。

コロナ禍で増える相談件数と内容の変化

これまでは、くらしの中で「何をどうしたらいいかわからない」というちょっとした相談が多かったが、最近は生活や人との関わりが変化し、自分と向き合う機会が増えたことなどで先延ばしにしていた不安や課題に向き合わざるを得なくなったことが考えられる。



相談から見えてくる課題

他者との関係・ひきこもり・生活困難・困窮・生きづらさ・孤立・社会になじめない・仕事に就けない・住まい・自分自身の悩み・不信・つながりの希薄さ・離婚・近隣トラブル・感染不安・生活不安・etc...

グループトーク

「お話を聞いて感じたこと、よくわかったこと」「今取り組んでいること、さらに加えてみたいこと、困っていること」をテーマに交流しました。

新型感染症で活動がままならない中、組合員活動が今後どのように進むのか これまでとは違う角度で考える必要もあるという話し合いや、悩みの共有もできました。

つながることの大切さ

相談によって「解決」はできなくても「解消」していくことはできる。社会的な孤立に陥り、どこにも相談できない。そんな状況をつくらないことが大事。コロナに立ち向かうためには「誰もが安心して暮らしていることができる地域社会」をつくるのが大切。

【アンケートの感想より】

- ・くらしの困り事は社会全体の課題と直結しておりコロナ渦の状況で多く寄せられている声を具体的にお話しが伺えて、これから地域での活動を進める際の視点が広がりとても参考になりました。
- ・引きこもり女子会の活動、相談件数の推移とその背景など、参考になりました。生協でも何かできればと思いました。